

尚徳寮

平成31年3月12日

鳥取大学附属中学校

No. 13

門出を祝して～第71回卒業証書授与式

3月9日（土）晴天の元、多数のご来賓の皆様並びに保護者の皆様のご臨席のもと、鳥取大学附属中学校第71回卒業証書授与式を厳粛に行いました。137名の卒業生は、緊張の中にも堂々とした態度で式に臨み、一人一人がはつらつとした返事をして卒業証書を受け取りました。

以下に、鶴崎校長の式辞を抜粋して紹介します。

「これから皆さんは、新たな場所で、新しい生活を迎えます。みなさんを送り出すにあたり、私からお願いしたいことが一つあります。それはこれから過ごすであろう高校での三年間で勉学に励むことはもちろんですが、同時に『自分が進むべき道』というものを是非はっきりさせてほしいということです。おそらく皆さんのほとんどは大学へ進まれると思いますが、大学や学部は偏差値で選ぶところではありません。自分が将来何をやりたいという目標があって、その目標に近づくのに適した大学や学部を選ぶということであるべきです。そのためには、若いうちには無限にあるといわれる可能性を、これからはどんどん自分でたたき割らないといけません。若いうちにはいろいろなことを経験することが大事とは言いますが、時間は有限です。面白そうだと思ったことにあれもこれもと手を出して、そこそこにいろいろと器用にできても、これだけは誰にも負けないと誇れるものが一つもないというのも残念です。何をどのように選択するかは自分です。本校の教育目標の一つは、自立して、ものごとを能動的に学ぶという力の育成でした。みなさんはこの三年間でその力は鍛えられたと思いますので、きっとそれができるはずです。『鶏口となるも牛後となるなかれ。』これは私が全校集会などの機会にお話した言葉です。皆さんには、人の踏み跡をたどるのではなく、新しい道を切り開く人、『トレイルブレイザー』を目指してほしいという願いを込めた言葉です。踏み跡のない道を切り開くのは楽ではないけれども、そのほうが人生はやりがいがあってきっと楽しいと私が信じているからです。同じ言葉を今日、また改めて送りたいと思います。

今日、ここに集った卒業生の皆さんが、これからの日々を、健やかに、たくましく、情熱をもって、いっそう成長していかれることをお祈りして、私の式辞といたします。」



平成三十一年三月九日 鳥取大学附属中学校校長 鶴崎展巨

「3年生を送る会」を行いました。

卒業式前日の3月8日(金)、生徒会主催による「3年生を送る会」を行いました。これは、卒業生が3年間の中学校生活を振り返ることで、先生や同級生・後輩とのつながりを再認識し、附中での生活の充実感や達成感を味わったりするためです。しかしもう一方で1・2年生が、卒業していく3年生への感謝の気持ちを伝えることにより、来年度の活動への意欲を高め、よき伝統を引き継ごうとする態度を強くするためでもあります。

生徒会長泉君の開会あいさつで始まった会は、吹奏楽部演奏、応援団旗引き継ぎ式、3年間の思い出ビデオ、有志による演奏・合唱、在校生より花とメッセージの贈呈と進みました。最後に、2年生代表による送辞と3年代表の答辞で締めくくりました。附属中学校では、卒業式ではなく、「3年生を送る会」で送辞、答辞を行っています。

定久絵美さんの答辞より(抜粋)

「今旅立とうとする私たち3年生は全然完璧な人間ではないし、何でもうまくこなせるわけでもありません。だけど、私たちはそんな自分から目をそらさずに真正面から見つめて、傷ついて、イヤになってそれでもムキになって自分に打ち勝とうとしたすごい人ばかりです。

みんながどこか欠けているから全員で手を握りしめてつながり合って前進してきました。絵に音楽に思いを託す人がいて、スポーツで思いを爆発させる人がいる。趣味で思いを育む人がいて、言葉に思いを乗せる人がいる。一人ひとりが本当に特別で、輝いていて、137名全員そろったら目が痛くなるくらい強い光を放つ。私たちはそういう集団です。～略～

宣誓、私たち第71回鳥取大学附属中学校卒業生は、本校での日々を胸に、最高の人生を歩むことを誓います。」



1・2年生、進級への自覚

3年生が卒業して、学校は1・2年生だけの生活が続きます。3年生がいないことによって学校の雰囲気も少し違ったものになりますが、1・2年生にとっては、本年度のまとめをすると同時に、来年度に向けて意識を高めていかななくてはならない期間でもあります。これまで3年生がいることによってあまり目立っていなかった部分が、新たに改善すべき課題としてクローズアップされてきたりもします。今一度謙虚に学校生活を振り返り、それぞれ進級に向けた自覚を高め、なすべき準備を進めてほしいと思います。

ところで、春休み中の部活動は自主的に活動する時間が多くなります。「大きな声であいさつや返事をする」「ルールやマナーを守って規律ある練習をする」「道具を大切に使う」など基本的なことですがとても大切なことです。すべては基本を大切にすることから始まります。部長任せにするのではなく、部員一人一人が意識してやり切ることが重要であり、まずは部活動を通じて進級への意識を高めていくことも効果的ではないでしょうか。頑張れ、1・2年生!